

令和7年度第1回 半田市総合教育会議 会議録

開催日	令和7年6月6日(金)10:00~11:30
開催場所	半田市役所 庁議室
構成委員	半田市長 久世孝宏 教育長 榊原雅晃 教育委員 新美大 教育委員 桂優子 教育委員 堀崎隆資 教育委員 久米宏和 教育委員 正村日登美
構成委員以外の出席者	教育部長 森田知幸 主任指導主事 木下稔章 企画部長 大木康敬 学校教育課長 内藤誠 学校教育課主査 羽根広 企画課長 内田敦士
議事録作成者	企画課主査 山田耕平
協議事項	・第2次半田市教育大綱の中間見直しに関する協議について ・幸せになるための教育に対する取組及び評価について

〈 開会 10時00分 〉

1 市長あいさつ	<p>(市長)</p> <p>皆様方には大変お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。本日は、教育大綱の見直しと、幸せになるための教育の実現を1年間取り組んだ結果、皆様が感じたことやご意見を頂戴し、予算編成にあたっての判断材料とさせていただきます。また、様々な場面でご協力いただいているところではありますが、私どもと一緒に半田市のため、子どもたちのために、この総合教育会議が一助となることを期待します。短い時間ですがどうかよろしくお願いをいたします。</p>
2 教育長あいさつ	<p>(教育長)</p> <p>日ごろから大変お世話になっております。1学期も半ばを迎えています。小学校では運動会、中学校では野外活動、修学旅行といった大きな行事が予定されており、各学校のホームページを見ると、子どもたちが楽しそうに充実した学校生活を送っている様子が見受けられます。また、そうしたところを見ていると、随所に地域の方々の協力が見られ、大変感謝の気持ちでいっぱいであると同時に、コミュニティ・スクールが定着してきている実感がわいています。また、学校のみならず生涯学習・スポーツ等の分野においても、順調に今年度の事業が展開されていると感じています。</p> <p>令和4年9月に提案を受け、令和5年度から取り組み始めた幸せ教育も3年目を迎え、ハッピーウィークを設けて幸せについて考える授</p>

	<p>業を展開するなど取り組みをしているものの、教職員に対して幸せ教育の真意が伝わっているかという点については、まだまだ不十分であると感じていますので、今年度は、更なる工夫を凝らして取り組んでいく所存です。</p> <p>そもそも学校は、全ての子どもたちが夢や希望を持って、幸せな人生を歩むためにあるものだとは私は思っております。また、子どもたちの幸せを育むためには、指導する立場にある教職員も自らの幸せについて考え、子どもたちのロールモデルとなる自覚が必要だと思っています。働き方改革、学校のDX化などの大きな課題については積極的に取り組みつつも、教職員が幸せそうに学校で働いている姿が見られるよう、教育委員会としても働きかけていきたいと思っています。また一方で、子どもたちを巡る状況として顕在的な課題は山積しております。不登校やいじめ問題はもとより、中学校の部活動改革、家庭における虐待、貧困といった問題もあり、またネット社会となり多様な子どもたちに対する被害等、枚挙に暇がありません。これらの問題を未然に防止・解決を図っていくためには、地域社会全体で子どもを見守り、育てる仕組みを作る、また、課題解決に向けた具体的な施策の展開が不可欠であります。教育委員会としては、コミュニティ・スクールの定着・活性化を図るとともに、キャリア教育を通して幸せな人生を送るための教育に計画的に取り組み、将来にわたって元気・笑顔・優しさいっぱいに伸びようとする子どもたちを育てることに努めていきます。本日の会議が実りあるものとなるよう、よろしくお願いいたします。</p>
<p>3 協議事項 (1)</p>	<p>(学校教育課長) 第2次半田市教育大綱の中間見直しについて資料に基づき説明</p> <p>(市長) 昨年度、幸せ教育について半田市独自に盛り込みました。今回の見直しにあたっては、国・県の資料を参考に時代に沿って見直しをしていきますが、国の資料を見ても、幸せに関する内容が触れられているため、大きな齟齬はないと思いますが、ご意見、大事にすべき観点がありましたら、ご発言をお願いします。</p> <p>(学校教育課長) 補足です。国の計画、県の大綱を斟酌して策定するものでありますが、地域の実情に応じて策定するものであり、必ずしも国、県の内容を網羅する必要はありません。また、見直し案を作成するにあたり、半田市版と国の計画と内容を照らし合わせて行いますが、表現に違いがあったとしても同様の内容が表せていれば問題ないと考えています。</p> <p>(新美委員) 国の計画の決定は令和5年6月16日、愛知県の大綱は令和3年2月12日になっており、斟酌するには数年間期間が空くが、見直し内容に影響はない認識で良いでしょうか。</p>

	<p>(学校教育課長) 影響はないと考えます。例えば、国の計画にある教育現場のDXは、今の半田市の教育大綱のICT推進と表現は異なりますが意味合いは近いです。ICTというのは学校内の電子化、DXはそこから新たな価値を生み出すことを指すため、DXについて盛り込めると良いと考えています。</p> <p>(市長) 異議がなければ、改定の方針・スケジュールについては今回の資料に記載のとおり進めさせていただきます。 改定案については、別途委員の皆様にお示しをいたします。</p> <p>(学校教育課長) 3月までに改定できるよう調整します。</p>
(2)	<p>(学校教育課主任指導主事) 資料に基づき説明</p> <p>(市長) 幸せになるための教育会議は昨年度終了しましたが、今後はこの場を通じて教育委員会で進めていただくようお願いいたします。アンケートの感想を見ると、意識の高い先生方は課題を的確に捉えているため、ぜひその活動を支援していただき、課題解決に向け、教育委員会で調整し、取り組みを進めていただきたいと思います。</p> <p>また、アンケート結果を踏まえ、今後の取り組みや、予算に関するご意見をお伺いしたいと思います。</p> <p>(堀崎委員) 資料の3頁の実践事例の蓄積について、前回も話をしましたが、実践事例の蓄積は進んでいるものの、活用できていない先生にいかにか簡単に活用できるようにするかが課題と思います。外部委託などにより実践事例をデータベース化して、ウェブページ上で検索できるようにすれば、取り組めていなかった先生も取り組むようになると思います。また、公開して良ければ保護者にも公開し、親子で語り合ってもらえる状態になれば良いとも思っています。</p> <p>(学校教育課主任指導主事) 実践事例の蓄積については、2点課題があります。 1点目は、板書は写真データのみが保存されており、授業の流れやこういった授業であったかが分かり難い点です。そのため、写真にどのような授業を実施したかポイントや流れを他の教員に向けて簡単にコメントを入れるようにして周知する等の工夫をしています。 2点目は、保存先フォルダの階層が深く、検索に時間を要しており、データベース化が望まれています。</p>

(企画部長)

出来るかは不明ですが、デジタル課で AI を活用したカテゴリー分けの実現可能性について、相談をしてみます。

昨年度から DX アドバイザーの活用も行っていますので、教職員の負担を軽減する観点を含め、教育委員会とも相談し、対応を検討します。

(久米委員)

事前にアンケートの内容を教育委員に確認しましたか。

(学校教育課主任指導主事)

学校評価のため、各学校が独自に作成しているため、事前に各委員へ確認していません。

(久米議員)

アンケートの中身が学校ごとにバラバラになっているということはありませんか。

(学校教育課主任指導主事)

重点目標は学校ごとに異なるため、微妙に異なる部分があります。しかし、「幸せになるための教育」に関する設問については、教育委員会から同内容を記載するよう依頼しています。

(新美議員)

資料2頁のアンケート結果については、設問の文言は一字一句同じではないものの、「幸せ教育」に関する内容が書かれているという認識で良いですか。

(学校教育課主任指導主事)

そのとおりです。学校評価については、学校ごとに設問が若干異なっていますが、教職員向けのアンケートでは、「児童生徒に幸せになる教育を考えさせることができたか」、「児童に向き合うためにゆとりを持つことができたか」のタイトルについては、同一としています。児童生徒向けのアンケートでも「幸せについて考えることができたか」を同一の文言で聞いています。

(新美委員)

前年も今年も同一の設問で実施していることで良かったですか。

(学校教育課主任指導主事)

前年度も今年度も同一の設問を使用しています。

しかし、回答者が毎年入れ替わること、評価の観点が明確でないこと、主観的な回答結果が多いことから、単純な前年比較が難しいです。今年度中に、同一の観点で評価できるよう工夫をします。

また、幸せ教育については、評価基準が特に難しいため、アンケート内容に、「幸せ教育」の浸透度、ハッピーウィークだけでなく、年

間を通じた実践状況、活動の振り返りなどの評価の観点を設定します。

(久米委員)

前年度評価のパーセンテージを資料に載せてもらいたいです。

また、中学校における職員アンケート結果の中で、部活動改革によってパーセントが上がったのか、下がったのかどうかを教えてください。

(学校教育課主任指導主事)

中学校は昨年度の 57.46%から 62.56%に増加し、良くなっています。参考ですが、小学校についても 61.11%から 69.94%に増加しています。

(久米委員)

子どもの幸せは家庭の幸せの上に成り立つものと思います。そのため、家庭のアンケートが今後取れたらいいと思います。

(市長)

家庭向けのアンケートはすでに実施していますが、聞きたいことを盛り込むことで、家庭、児童や教員すべてにおいて幸せについて考える機会を増やすことは良いことだと思います。

(桂委員)

部活動・働き方改革や教科担任制によって、先生方のアンケート結果が良くなってきているのは、働き方改革の成果が表れていると実感しました。

昨年度も発言しましたが、蓄積された授業データを活用し、「市長の選ぶおすすり授業」のように取り上げることにより、先生の興味関心を高められると思います。

評価の中で、中学校においては、「全体で話をしたり、考えたりする機会が少なく、教職員一人ひとりが自分で考えてやってみようという意識になりにくい。」という結果が出ているため、いかに教員が幸せ教育の面白さ、腹落ちできるような工夫を考える必要があると思いました。

また、希望する先生を集め、教育委員も参加する幸せ教育について理解を深める場や、面白いアイデアが出てくるような機会をより作っていけると良いと思いました。

(学校教育課主任指導主事)

昨年度、幸せになるための教育を実現する会議の委員から、教員との意見交換の場を作りたいとの申し出がありました。月に1回、少経験者の職員向けに各学校から数名参加する自主研修会を開催する中で、各回テーマを決めて意見交換をする場を設けており、このうちの1回を幸せ教育に関することをテーマにして、研修会に教育委員を招き意見交換を行いました。参加した教員からは「幸せ教育に関する話

を聞く機会がなかったからとても新鮮だった」、「幸せ教育という言葉は見聞きしていたが、実際にどう行えばよいか分かっていなかった」という意見が多く聞かれたため、各学校に隙間時間を活用した幸せに関する話し合いの機会を増やすようお願いしています。

(市長)

毎月の自主研修会で「幸せ教育」をテーマにするのは難しいですか。

(学校教育課主任指導主事)

若い先生たちに扱ってほしいテーマは数多くあり、昨年度も苦慮しながら何とか幸せ教育をテーマにするよう調整したため、難しい状況です。

(市長)

話す機会が大事であれば、教員の負担にならない範囲で、ぜひ学校現場に広めてほしいです。

(教育長)

国の計画の見直しで、ウェルビーイングの向上、幸せに関する教育の在り方について記述が盛り込まれたことから、半田市独自の「幸せ教育」に対する教員の唐突感は緩和されると思います。

しかし、市長の考える幸せ教育が、国の言うウェルビーイングの向上で内容が異なる場合は、対応が変わってきますが、その点はいかがでしょうか。

(市長)

概ね間違っていないと思います。幸せについては、まず自分で考えることが大事だと思っています。

(教育長)

半田市としては「自分で考える」という入口の部分を重視したというところで良いでしょうか。

(市長)

国の計画のウェルビーイングの記載箇所について一部まだ理解の追いついていない箇所もあり、これが全く半田市と同じ考え方なのか、現時点では不明ですが、少なくとも幸せに関する記述については、食い違いはないと感じています。

(企画課長)

幸せ教育はボトムアップ、先生方が主体的に考えることを重視していました。しかし、教育現場に広めていこうとすると、教育委員会からのトップダウンが必要な場面がありました。その点が矛盾していますが、普及にはある程度のトップダウンは仕方ないと思いますし、概念、考え方自体に食い違いはないと考えています。

(市長)

ボトムアップで進めてほしいところではありますが、2年間の経験から、先生方に広めるにはトップダウンの手法もやむをえないと思っています。

(教育長)

義務教育は、国の定めた方針に従うものであり、逸脱して手あたり次第行っただけではいけないものです。学習指導要領が目指すものを具現化していくことが重要です。国は方針を示しますが、そこに到達するまでの手法は教員の創造性に委ねるとしています。

この度国から示されたウェルビーイングについても、達成のための手法は教員の創造性、主体的な取り組みで行うものと理解しています。子どもたちも自主的、主体的に幸せについて考えることができるように、教員も工夫し、子どもたちも自分なりに取り組むことが目指す姿となります。

(企画課長)

その考え方は、幸せ教育会議の方針と一致しています。

(正村委員)

2年間の取り組みで、「幸せ」という言葉への意識が高まりました。学校だけでなく、家庭や地域を巻き込まないと難しいと思いました。幸せを数値化するのは難しいと思いますので、ポスターなどを活用し、目に見える形で発信することも必要と思いました。

また、「市長おすすめの授業」などを設定し、年1回でも良いのでハッピーウィークで楽しく実施していくのはどうでしょうか。

はらたらく親を応援するまちのステッカーのように、幸せステッカーを作成し、学校内に掲示することにより、教員・子どもたちがいつも目にする状況を作ることで、幸せについて考えるきっかけづくりをすることも有効だと思います。

「幸せ教育」は子どもが知っていても親が知らないことも多いため、幸子どもから家庭へ発信できるようになると良いと思います。

(新美委員)

資料1頁のパーセンテージですが、2年目にも関わらず結果が思わしくなく、がっかりしました。私は、先生方は一生懸命取り組んでくれているものの、すごく悩んでいるのではないかと、この結果から感じました。

幸せ会議はボトムアップ形式のため、先生方に授業内容を任せていましたが、ここに来て方向転換が必要だと思っています。

ハッピーウィークで、幸せ教育について考える機会が増えているところにプラスしてまた新たな取り組みを行うことは教員にとっては負担増でしかないと思います。

その中で半田市が取り組んでいるキャリアサポートと幸せ教育を連動できないかと思っています。小学校のキャリア部会の稼働率が高く、定期的に話し合う場を設けている学校もあり、仕組みが出来て

	<p>いると思いますので、「幸せになるためのキャリア教育」としてキャリア部会を活用することが良いと思います。</p> <p>また、小学校から中学校に持ち上がる際、ファイルのサイズが学校ごとに異なり管理が煩雑になっていると聞きました。市で統一規格のファイルを用意し、小学校・中学校を通して使用することで、教員の負担を減らすことができると思いますがいかがでしょうか。</p> <p>(教育部長) 物品類の統一については、教育委員会として検討し、必要があると判断した場合は、市長部局へ要求をしていきます。</p> <p>(市長) 予算については市全体の事業を勘案し、担当部局と調整し、決定していきます。また、今回ご提案いただいた内容については、検討させていただき、実現に向けて取り組んでいきたいと思います。</p>
4 その他	<p>(市長) 体育館への空調設置についてですが、全校で施工完了するのはいつ頃になる予定ですか。</p> <p>(教育部長) 現在、日程調整中です。市内を4グループに分け、順次施工を進めており、1学期中の完了を目指しています。</p> <p>(正村委員) 学校の窓に貼られた飛散防止シートの劣化が著しく、学校によっては剥がすことを検討しているという話を聞きます。過去に市が一斉に貼ったものと記憶していますが、費用がかかるとしても一斉に貼り替えるお考えはあるのでしょうか。学校によって対応が分かれることは望ましくないとします。</p> <p>(教育部長) 飛散防止シートの貼り替え又は強化窓への交換は、費用面から優先順位が低く、実現に至っていません。</p> <p>(新美委員) 保護者に協力してもらい、学校ごとに少しずつでも取り組むことも1つだと思います。使用する溶剤や道具は教育委員会に用意してもらい、劣化の激しい箇所から順に進めていくのはどうでしょうか。</p> <p>(市長) 保護者協力のもと学校ごとで少しずつでも進めることも一理あります。しかし、1校あたりの作業時間が不明なため、すぐに依頼をすることは困難です。引き続き検討していきます。</p> <p>(教育長)</p>

	<p>本日は、有意義な議論が行われたことに感謝いたします。</p> <p>幸せ教育のアンケート結果について、様々なご意見をいただきましたが、数値は必ずしも実態を反映しているとは限りません。</p> <p>その点も踏まえ、今年度は調査の方法自体に工夫をしようと考えていますので、来年度の結果によって、またご意見をいただければと思います。</p>
--	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

〈 閉会 11時30分 〉